

第38回世界獣医師会大会の開催

令和5年4月26～29日、台湾台北市の台北南港展覽会ホール2において、第38回世界獣医師会（WVA）大会が開催された。

本大会には、世界各国から約3,500名が集い、9つの会議室を使用して、200を超える講演が行われた。日本からは、講演者として7名が参加した。本大会に先立ち、4月25日には、WVA会長ラファエル・ラガンズ氏、WVA次期会長ジョン・デ・ヨン氏、本会の藏内会長をはじめとする主要な大会参加者が、台湾総督府に招かれ台湾副総統 頼 清徳氏と面会した（図1）。

大会初日（4月26日）に、WVA総会が開催された。本会の藏内勇夫会長は、FAVA（アジア獣医師会連合）会長として、FAVAを代表して議決権を行使し、境政人副会長兼専務理事が本会を代表して議決権を行使した。なお今回の総会では、電子投票制度が活用された。

総会の審議内容として、まず、今回の議題として、2024年度にWVA会費を値上げすること、値上げした会費額の算出に当たっては2022年のHuman Development Index（HDI）を使用する、という提案についての検討を取り上げるか否かについての採決が行われ承認された。その後、前回のWVA総会（アブダビ開催、ハイブリッド形式）の議事録の採択、ラガンズWVA会長から今年度の活動内容が紹介された。今年度の活動として、新規構成団体としてクルディスタン獣医師会、ウクライナ獣医師経営者協会が認められ、加えて、オブザーバーメンバーとしてケニア獣医パラプロフェSSIONナル協会、アフリカ獣医技師会が認められたことが報告された。次に、事務局体制の変更として2022年末から事務局がバーチャルオフィスとなり、エクゼクティブマネージャーのマグダ・ロレンソはポルトガルで、政策担当のイボヌス・ニノはスペインで勤務を行っていること、WVAの書類等の貴重な資料は、スペイン獣医師連合会総評議会によって無償提供された専用の部屋に保管され、今後デジタル化されることになったとの報告があった。財務報告として、財務担当のハイディ・ケロコスキー・キースキネン氏から、昨年度総会に間に合わなかった2021年度監査報告、2022年度決算報告、並びに2024年度予算案が説明された。2022年決算では、402,555,76 €（約5,959万円）の繰越金が生じること、2024年度予算案として、収入が348,712 €（約5,160万円）、支出が290,500 €（約4,298万円）となることが説明され、それぞれ2021年度監査報告とともに承認さ



図1 台湾総督府前での記念写真

れた。今回の総会の重要案件の一つとして、会費の増額についての説明がなされた。具体的には、直近の3年間会費額が増額されなかったこと、一方で、このままの水準で会費を維持するとヨーロッパを中心としたインフレによって収入の実質的減額となることが懸念される事から将来的に急激な会費の増額の必要となることが懸念されることが説明された。このような事態を避けるために、2024年の会費を3%増額し、獣医師一人当たりの会費を現行の1.53 €（約226円）から1.58 €（約234円）に設定し、最低会費を230 €（約34,100円）から236.9 €（約35,100円）に引き上げることが提案され承認された。続いて、2019年9月に改正されたベルギーの社団法人規約に基づいて、ベルギーに拠点を置く法人は、2023年12月末までに定款・約款の改定を求められていることから、WVA定款・細則の改定についての説明があった。改訂された規約では、現在の定款の記載の一部を簡略化することを求めており、これに準拠するた



図2 総会での会長特別賞の発表



図4 福岡県ワンヘルス総合推進室長 平山裕章氏の講演



図3 総会終了後の集合写真

め、定款第一条の事務局の詳細な住所の記載を、簡略化して Brussels, Belgium との記載に修正すること、また、上記の改正によって関税地域の定義も不要となったため、第3条の関税地域に関する注釈も削除することが提案され、承認された。引き続き、WVAの各種委員会（政策委員会、常設委員会）及び作業部会（動物福祉作業部会、ワンヘルス作業部会、獣医学教育作業部会、医薬品適正使用基準作業部会）からの報告が行われた。また、WVAとFAVAの元会長であるジョンソン・チャン博士がWVA名誉会員として承認された。また、WVA会長特別賞が、日本におけるワンヘルスの推進に対する貢献に対して、本会蔵内会長に送られること、2022年世界獣医師デーに関連して、世界獣医師会デー賞がナイジェリア獣医師会に送られることが発表された（図2）。

総会の最後に、2024年4月14～19日にかけて南アフリカ（ケープタウン）で行われる次回大会に関して、南アフリカ獣医師会から情報提供が行われた。また、2025年大会にはアメリカ獣医師会が立候補する旨を、ジョン・デ・ヨン次期WVA会長が表明した（図3）。

同日夕刻、WVAC開会式が行われ、台湾副総統 頼 清徳

氏のビデオメッセージ紹介、新北市行政担当者等の祝辞が述べられるなど、本大会が台湾行政機関の手厚いサポートのもとで開催されたことが深く印象付けられた。

WVACにおいては、4月27～28日の二日間をかけて、第9回世界ワンヘルスサミットの講演が行われた。今回のワンヘルスサミットは、“Environment, an essential element of One Health”（環境、それはワンヘルスの重要な要素である）をテーマに15の講演が行われた。27日には、福岡県ワンヘルス総合推進室長 平山裕章氏が“Fukuoka Prefectural One Health Initiatives”（福岡県のワンヘルスへの取組）と題して講演を行った。本講演に対しては、会場から行政がワンヘルスに積極的に取り組んでいる状況を、高く評価をする声が上がっていた（図4）。

また、ウクライナ食品安全・消費者保護局のオルガ・シェプチェンコ博士らによって、ロシアによるウクライナ侵攻が獣医師の活動に与えている深刻な状況が紹介された。28日には、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、北アメリカそれぞれの地域ごとの獣医学教育の観点から、ワンヘルスの課題について講演が行われた。また、国際獣医学生連盟次期会長による、学生の立場からのワンヘルスに関する意識調査に関する講演が行われた（図5）。

4月28日夕刻には、会場に隣接する雅悦会館（Grande Luxe Banquet）でガラディナーが盛大に催された。ガラディナーでは、本会蔵内会長に対するWVA会長特別賞、ナイジェリア獣医師会に対する世界獣医師会デー賞の授賞式が行われた。授賞式では、受賞者の業績に関する動画が紹介され、受賞者の受賞スピーチが行われた（図6）。

WVAC最終日である4月29日の午後には、国際獣疫事務局（WOAH）アジア太平洋事務所代表 釘田博文氏が、WOAHにおける越境性感染症に対する取組を、WOAHアジア太平洋地球代表事務所 地域獣医官 浦辺

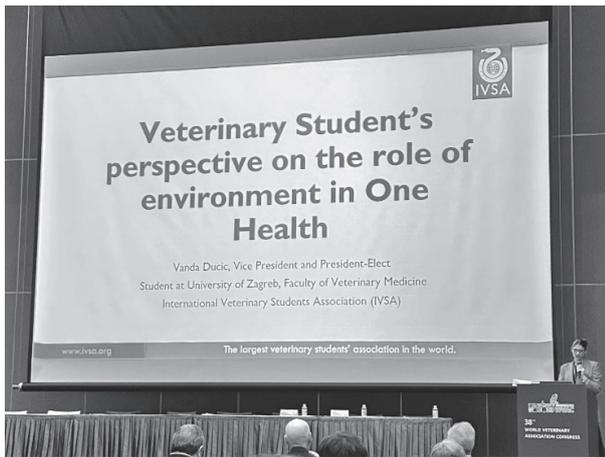


図5 国際獣医学連盟次期会長の講演

真帆氏が、WOAHによる獣医サービス能力開発プログラムであるPerformance of Veterinary Services(PVS) Pathwayをそれぞれ紹介する講演が行われた。閉会式では、次回大会開催地である南アフリカ獣医師会による開催情報が共有され、大会旗が台湾から南アフリカに手渡されて、4日間のWVAC2023が閉会した。

本大会に合わせて4月27日には、FAVA執行部会議が開催された。会議では、前回議事録の採択に引き続き、国連食糧農業機関アジア・太平洋州地域事務所（FAO/RAP）との薬剤耐性（AMR）対策推進プロジェクトの



図6 本会蔵内会長のWVA会長特別賞受賞スピーチ
左：ラファエル・ラガンズ WVA会長

進捗報告、中東・アフリカ獣医師大会（MEAVC）との間のMOU締結に関する進捗報告、FAVA関連イベントへの参加、開催状況の報告、WVAC2023総会概要の報告等と共に、FAVAワンヘルス福岡オフィス開設の進捗状況の報告が行われた。また、FAVAのYouTubeチャンネルの開設（<https://www.youtube.com/channel/UCaWlsKvRxh1C8aMnnFB3P4Q>）の報告がされた。また同日午後には、台湾、韓国、日本の獣医師会関係者が会合を持ち、それぞれの国におけるマイクロチップやワンヘルス教育等に関する情報交換が行われた。